

2018年(平成30年)4月4日(水曜日)

「一枚目の名刺」なるNPO法人がある。業務用の名刺とは別に、自らの私的な活動などを表現したもう一枚の名刺を持つて、一枚の名刺をやりとりすることを推進する。これによって、「自分を変える、社会を変える、笑顔になる」ことを目指す。代表の廣瀬樹さんと出

歩き

会ったのは、もう10年以上前になろうか。たまたま当時、私が3枚の名刺を使っており、これを廣瀬さんに渡したのが一枚目の名刺運動を起こすきっかけになつたとか。こうかけになつたとか。こうした機縁もあって私は「一枚目の名刺サポート」を自称している。業務でのやりとりをするに当たって、自らの信

ネットワークから
パートナーシップ

協同活動の芽 大切に

農的・社会デザイン研究所代表・鳴谷栄一氏

条や趣味などを一枚目の名刺に託して伝えることにより、人格的な関係性をも踏まえて業務を進めいくことを本義とする。

この一枚目の名刺運動だけではないが、最近、複数の名刺を持つてやりとりする人が増えていることを実感する。つい先日も社会人を対象とした集まりで話ををする機会があつたが、名刺交換した人の約6割から複数の名刺を頂いた。

自らを自己表現しようとする人が増えていることも確かであろう。これに加えて、業務というか給料をもらうための仕事とは別に、ボランティアなり趣味の世界で活動をする人が増加していることを示してもいる。

そして先の集まりの告知は、インターネット交流サイト(SNS)のフューズブックだけということで、紙ベースでの案内は全くない。従つて集

まつた人たち、30人ほどあるが、お互いにはほとんど面識がなく、初対面が多いという。まさに時代の変化を感じさせるが、ネットワークで個々がつながり、時には機会を捉えての集まりで交流する。これがこれから課題となる。言い換えればネットワークでのつながりを経て、相互にパートナーシップを組んでいくステージに入ってきていると言える。

今、一枚目の名刺が象徴するように、小さな協同活動があちこちで芽吹き始めている。自己改革で協同組合を守っていくだけでなく、こうした芽を大事にし大きく育てるにいふことも協同組合陣営の大きな役割ではないか。

(次回は11日付)